

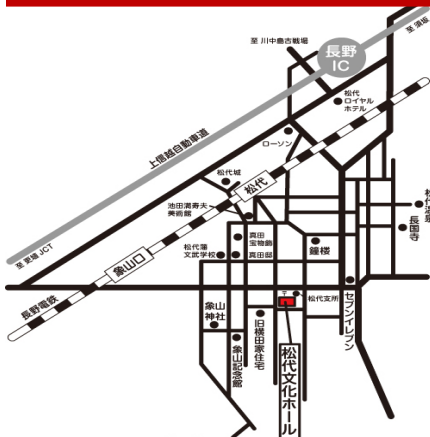
**乗って残そう！地域公共交通  
みんなで考え行動しよう！地球温暖化防止  
公共交通を考える市民の集い・第2弾  
「屋代線の将来を考える」**



長野電鉄は2月、経営赤字が続く屋代線（須坂～屋代間24.4キロ）について、「単独での運営は困難」として長野市など沿線3市や県に対し存続に向けた協議を申し入

れました。  
通勤や通学の欠かせない交通手段として利用されている屋代線。現在、長野市では須坂市、千曲市など沿線自治体と地域公共交通活性化再生法に基づく法定協議会＝長野電鉄活性化協議会を設置し、国の支援を受けながら存続させる道を検討しています。  
鉄道は一旦廃止されると復活は困難です。地球温暖化防止に向け、公共交通の役割が見直されている今日、屋代線を残すために、私たちに何ができるのか、屋代線の将来をともに考え、知恵を集めましょう。  
お誘いあわせてご参加ください。

実行委員長 **茅野 實**  
(県環境保全協会会長)



日時 **7月4日(土)**  
PM1:30～4:30

会場 **長野市「松代文化ホール」**

**入場無料**

駐車場が少ないため、なるべく公共交通機関を利用し参加ください。  
交通手段は裏面をご参照ください。

**第1部** 事例報告「地方鉄道の『今』を考える」 **第2部** パネルディスカッション  
13:30～14:30 古平 浩さん(長野電鉄活性化協議会委員) 14:30～16:30

◆パネリスト

**鷲澤正一氏**  
長野市長

**茅野 實氏**  
集い実行委員長  
県環境保全協会会長

**笠原甲一氏**  
長野電鉄(株)  
代表取締役社長

**古平 浩氏**  
長野電鉄活性化  
協議会・学識委員

◆コーディネーター

**小林 孝氏**  
信濃毎日新聞  
論説委員

**エコでスロー  
な生活へ**

**[主催]**「公共交通を考える市民の集い」実行委員会  
**[後援]**長野市・長野市教育委員会/須坂市・須坂市教育委員会  
千曲市・千曲市教育委員会  
**[事務局]**長野市県町532-3 県労働会館内 ☎(235)3325

私たち実行委員会は昨年7月に、川中島バスの不採算路線の見直しにあたり、第1弾として「公共交通を考える市民の集い」を催しました。今回は公共交通を考える第2弾として屋代線をテーマに計画しました。

## ■長野電鉄・利用者数の推移は？

	昭和41年度		平成19年度	ピーク時の
長野電鉄全線	2022万人	➔	840万人	41.6%
屋代線	330万人		48万人	14.7%

## ■屋代線の経営は？

- ◇平成19年度は1億8千万円の赤字
- ◇これまでの累積損失は50億円超に
- ◇これから10年間に必要な投資額（車両更新や施設整備）は30億円超に

### 【交通手段】

#### ◎バスご利用の場合＝JR長野駅前・乗り場30

長野駅発	松代駅着		
11:45	12:15		
12:15	12:45		
12:45	13:15		
	松代駅発	長野駅着	
	17:00	17:30	
	17:30	18:00	

#### ◎屋代線ご利用の場合＝屋代方面から

屋代駅発	松代駅着		
10:28	10:41		
12:00	12:13		
	松代駅発	屋代駅着	
	16:42	16:56	
	17:41	17:56	

#### ◎屋代線ご利用の場合＝須坂方面から

須坂駅発	松代駅着		
11:14	11:37		
12:49	13:12		
	松代駅発	須坂駅着	
	17:21	17:44	
	18:25	18:48	

# 屋代線問題で法定協議

沿線市町村や住民らから年度内に調査計画

長野電鉄屋代線（須坂・屋代、二四・四キロ）の存続を沿線市町村や住民らから話し合う「長野電鉄活性化協議会」が一日、長野市役所で初会合を開いた。地域公共交通活性化再生法に基づき、法定協議会の位置づけ。乗客減で厳しい経営が続く同線の立て直しに向け、地域のPRや観光振興による利用増、「顧客満足度」の向上などを盛り込んだ基本方針を決めた。

委員は、沿線の長野須坂（計八人がオブザーバーとして千曲市の副市長らと住民代表）を加わり、会長には長野市の酒井、観光・商工関係者は、井登副市長を選んだ。約計二十七人。ほかに北陸信越運輸局と同社の長野線（長）用増加策などの調査計画を作成。国の補助を得て二〇一〇年度に実施する。初会合で委員からは「住民意識をよく調べてほしい」「住民が主体的に立ち上がる必要もある」といった意見が出た。委員でもある長野電鉄の笠原甲一社長は「屋代線は慢性的な赤字が続く。単独での存続は難しい。迅速に協議会を設けていきたい。お礼申し上げるとあいさつした。

屋代線の〇七年度の年間乗客数は四十八万人、少子高齢化などでピークだった一九六五年度の15%に落ち込んでいる。七〇年代後半からは年間一億五千万〜二億円程度の赤字が生じているという。地域公共交通活性化再生法に基づき認定を受けると、調査や活性化事業に国の補助が

受けられる。鉄道を主に検討。沢間を運行するしなの鉄道に

知恵を絞りたい  
屋代線の存続へ

先日の本紙で、長野電鉄屋代線の存続が正念場だと語りかけられ、沿線住民としてその課題について自問自答してみた。私が屋代線沿線の職場に勤務していたころ、電車を使うことは少なかった。一時間に一本のダイヤでは、マイカー通勤が便利だった。車を運転する多くの世代は、同様な視点で屋代線の電車を見つめられたろう。

休日の屋代線に乗車すると、三パターンの客層を感じる。▽

九六五年度の15%に落ち込んでいる。七〇年代後半からは年間一億五千万〜二億円程度の赤字が生じているという。

地域の中高校生、高齢者、沿線の風景を楽しむ、幼児を連れた家族や旅人、鉄道マニア▽その他、私を含め多くの沿線住民は屋代線を利用していないのだが、中高生、高齢者にとっては「地域の足」であり、このたびの長野電鉄と沿線三市による「地域公共交通活性化再生法」に基づく協議は重要である。

今後は、二番目の乗車を楽しむ人々に協力を求めることはどうだろうか。

つかと考える。行政は、家族の心をはぐくむ一環として屋代線を支援したらどうだろうか。この沿線は、屋代、松代、須坂と地域文化を訪ねるには最適である。長野電鉄は昔からの施設が残る屋代線、全国の鉄道マニアにPRしたらどうだろうか。私にとって、この問題は「人ごと」ではない。共に知恵を絞りたいものである。

長野市 青木 一男  
(教員・48)

### ◆信濃毎日新聞 4月29日「建設標」より

思い出詰まった  
屋代線の存続を

この春、県外の大学生活を終えて長野に戻ってきた私は、長野電鉄屋代線の存続が危ぶまれているという記事を見て驚いた。屋代線は私の高校生活に欠かせない存在だった。通学の足としてだけでなく、モモの花など四季折々の景色で目を楽しませ

てくれた。毎日乗り合わせ顔見知りになったおじさんが、眠って乗り過ぎたそうなお話を起こしてくれることもあった。教室ではあまり話す機会のない人とも、電車待ちの時間を共有しながら話が弾んだ。私が高校を卒業しても思い出詰まった屋代線が変わらずに動いていることが何だかうれしく、学生時代帰省した時も、屋代線の電車を見て「高校時代にあれほど夢見た大学生活を送っているのだから頑張ろう」と励まされた。地域住民の足としてなくてはならない交通手段として定着している。また、沿線には古墳や城跡など歴史的名ものも多く、小中学生の社会見学にも活用できると考える。

長野市 宮嶋 千彬  
(団体職員・22)